

カバイロコメツキ

澄川森林活動日の昼休み、はしりのフキを探りたくて近づいたフキの葉に小さなコメツキ虫が止まっていました。大きさは10 mmそこそこと小さいのですが、形でコメツキ虫の仲間だと思いましたが、初めてお目にかかった虫なので、まずはデジカメで撮影しておきました。撮影日時は2018年5月7日12時7分でした。



帰宅して愛用の図鑑「札幌の昆虫」をめくりまして、カバイロコメツキと判断しました。出現時期は5~7月。生息地は山地とのみの表示です。ネットで調べましても、この虫の詳しい生態は分かりませんでした。仲間の多くは幼虫時は土中に住み、腐食質や植物の根、さらに他の虫をも食べる肉食性もいるとかですが、このカバイロコメツキがそのどれに該当するのかは不明であります。

日本のコメツキ虫たちは大きいもので30 mmほどですが(世界最大は80 mmとか)、裏返して地面や床に置きますと、パキンと音を立てて飛び跳ねて起き上がります。それが面白くて、幾度も裏返したのが子供時代の思い出です。胸部と腹部の繋ぎ目にバネのような仕掛けがあるようで、天敵を意識しますと、脚をすくめて死んだふりをして、ふいに音を立てて跳ね上がり天敵を驚かせてその隙に逃げる術なのであります。素手でさわっても、何らの実害もありません。

さて、カバイロとは何ぞや、漢字表記では樺色なのです。樺の表皮ではなく、中皮の色がそのものだと思います。色見本でご確認ください。

樺色

#b84828

かばいろ

雪が消えて、樹々が新芽を出しはじめますと、いよいよ虫の世界が始まります。今年はどんな虫と出会えるのかの楽しみが、ボラ活動参加の動機の一つであります。